

令和元年度 下関商業高等学校(全日制) 学校評価書 校長(藤本 茂)

1 学校教育目標	
教育目標	①社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)の育成 ②授業の充実による確かな学力の育成と進路指導の充実 ③部活動、学校行事等の充実 ④保護者・地域との連携と積極的な情報発信 ⑤安心・安全で快適な教育環境の整備 めざす生徒像 ①ビジネスの基礎力を充実させ、ビジネスへの理解力と実践力を備えた生徒 ②明朗で、人間としての常識とゆたかな人間性及びたくましい体力を備えた生徒 ③常に感謝の気持ちを忘れず、他人を思いやり、誠実で謙虚な生徒 ④変化の激しい時代に自ら主体的・積極的に対応でき、創造性を備えた生徒 ⑤日本の伝統文化を尊重し、グローバルな視野をもった生徒 チャレンジ目標 ①国公立大学25名以上合格 ②就職100%内定、3年間は離職しない進路意識の涵養 ③全商検定1級3種目以上取得者50名以上 ④欠席・遅刻数の20%減少
2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
総務	他の分掌と連携して学校行事の円滑な運営を図っていききたい。学校の確かな情報を迅速に発信できるようにしたい。
教務	校内業務の効率化と可視化を行い、部員のスキルアップを図っていききたい。
生徒指導	問題行動は少なく学校は落ち着いている。今年度は、情報モラル教育の充実を図り、SNS上のトラブルを防止すること、挨拶を省略せずに聞き取れる日本語ではっきりと発声すること(特に男子)、女子のプレザーのボタンを留めさせることを重点的に取り組みたい。
進路指導	進学に関しては、国立大学1名、下関市立大学14名という結果だった。就職に関しては6年連続で就職率100%を達成。本年度も、生徒の実情に即した就職先を開拓していききたい。
保健体育(保健)	健やかな心と体の育成を図るため、担任等と連携し、治療観察や健康観察を実施していききたい。
(体育)	全校集会等での集合・整列を整然と行うとともに、服装指導は生徒指導部と担任と連携して進めていききたい。
教育相談・人権教育	生徒の諸問題の早期発見と未然防止のため、学校生活に関するアンケートを毎月実施するとともに、SCを適宜活用していききたい。保護者に協力いただく学校安全に関するアンケートの学期に1回(年間3回)の実施を通して、安全や人権に対する意識を高めていききたい。
図書	魅力的な図書館となるよう、生徒のニーズと学びを兼ね備えた選書を目指す。「朝の読書」も、充実した時間となるよう、工夫をしていききたい。
情報	校務システムを運用するだけでなく、現行システムについての検証を行いシステムに不具合が出た場合の迅速・適切な対応を行う必要がある。
1年	下生としての心構えや礼儀等を普段の学校生活や授業を通して身につけさせたい。また、基本的な生活習慣の確立を図り時間厳守を意識させる中で、将来のビジネスのスペシャリストとしての資質を育成したい。
2年	中核の学年としての学習・行事・部活動等意欲的な取組を促したい。引き続き礼法・服装指導を徹底し、落ち着いた学習環境を整えたい。
3年	進路指導・生活指導のために学期に1度の個人面談の他、日常的な懇談を実施したい。凡事徹底の指導と習慣化に努めたい。
商業	校内での研修の充実させ、授業参観や研究授業などを継続して行う。地域社会に貢献できる人材を育成できるよう、地元企業と連携し、社会人基礎力、ビジネスマナー、実践力を育成していく。全商検定1級3種目以上を増加させるための取組を強化する。
情報処理	ある程度の方向性は示したが、学校内外において情報処理科の特色ある教育が明確にできていない。また、新学習指導要領を見据えた取組も十分とはいえない。
業務改善	「業務の見直し・効率化」、「勤務体制等の改善」、「学校支援人材の活用」の3つの柱をもとに、学校における働き方改革を着実に推進させる。

3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題
(1) 社会に貢献できる人間力の育成 ～ 凡事徹底、部活動・学校行事等でのさらなる飛躍～ (2) 基礎学力の向上 (3) ビジネスにおける実践力の練磨 (4) 保護者・地域との連携強化 (5) 安全・安心で、快適な教育環境の整備

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	アンケート評価				5 学校関係者評価	
			5 よくあてはまる 4 ややあてはまる 3 に回答された割合	評価: A達成できている B概ね達成できている Cできていない	資料	アンケート評価		
総務	情報発信の充実	①インターネットを使った情報発信 ②学校案内による学校紹介	学校の情報が家庭や中学生に適切に発信されている。学校案内が分かりやすく作成されている。	保護者	67.0%	学校Webページ及びFacebook等、インターネットを利用した迅速かつ確かな情報発信を行った。学校案内についても、的確な情報を載せるよう作成した。	B ・情報の更新頻度については要検討。他の商業高校に比べると更新スピードが遅い。 ・評価を見て昨年より運用がうまくいったのではないかと。更なる情報共有をめざし、LINEアカウント等も検討されてみてはどうか。 ・Webページでの情報発信は積極的に進んでいると思う。 ・情報発信ツールの環境がめまぐるしく変化することで、適切に実施されていると思う。	
教務	学力向上	①基礎学力の充実に着目した授業づくり ②自主学習の習慣化への工夫 ③補習・課外や個別指導 ④基礎力診断テストの活用	わたしは、授業に積極的に取り組んでいる。 わたしは、授業の予習や復習、検定試験に向けた学習を家庭で行っている。 基礎学力の充実に向けた授業づくりの工夫を行っている。 わたしは、学校の授業について十分理解していると思う。 基礎力診断テストの状況	生徒 生徒 教員 生徒 資料	47.1% 42.2% 93.0% 76.2%	各授業で教師側は教材について相当な研究と工夫をしており生徒の理解を深めたい指導が行われている。また、アンケートの結果を踏まえ更なる改善に努めている。このような努力によって授業の質が向上している。 ・生徒の授業への取組はますますの伸びが出ていて、更なる向上をめざしていききたい。現時点において、生徒の基礎学力の向上は達成されている。 ・生徒の授業への取組は、前半から後半にかけて良い傾向にポイントが上昇した。今後の課題は生徒の家庭学習におけるポイント向上を向上させることである。現在50%を切っているポイント50%を超えるように努めていきたい。検定試験の対策の家庭学習だけでなく、普通教科を含めた各授業の予習復習を定着させたい。そのためには各授業で家庭学習が定着するような指導を研究し実施していくことが必要である。それが一層の学力向上につながると思う。	B ・評価基準の2と2ページ目の出席率の低下を合わせて考えると、生徒の授業への取組はますますと言えるのではないか(先生方の努力は伝わってくるが)。 ・教員と生徒のアンケート結果に開きがある。自己満足型にならないように、商業の優位性を自覚していただくことも必要である。 ・授業での理解が深まれば復習の時間は減るかもしれない。授業の理解度と合わせて検証すべきである。 ・生徒の授業に取り組むモチベーションの向上に取り組んでいきたい。また、家庭学習は重要なので、保護者への理解促進もお願いしたい。 ・学力面では生徒と教員の乖離が少ない。 ・生徒アンケート評価で3項目中2項目が50%未満となっているが、概ね達成できているのではないかと(評価基準がよくわからない)。 ・国語の学力低下が気になる。	
	教員の指導力向上	①生徒による授業評価の実施 ②研究授業、公開授業の実施 ③校内外の研修会への積極的参加	先生方は、あなたの学力の定着を図るための授業や補習など熱心に取り組んでいると思う。 授業アンケートの結果に基づき、授業改善に取り組んでいる。 教材研究、公開授業や各種研修会等に参加するなど授業研究に取り組んでいる。	生徒 教員 教員	85.3% 97.7% 74.4%	・校則違反をする生徒はきわめて少なく、生徒は落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っていると思われる。ただ、女子生徒の制服のプレザーのボタンを留めさせる指導については徹底できなかったため、次年度は全教員で指導できるよう共通理解を図りたい。 ・生徒会活動では下商祭やホームマッチ等の改革に取り組んだ。新しい試みがいずれも成功し、随所で生徒の嬉々とした姿を見ることができた。生徒会役員、全校生徒もよく協力してくれた。 ・1掃除区域当たりの人数が多いため、一人ひとりの仕事量は少なくなっているように思う。 ・いじめに対する対応に関しては、担任や学年、教育相談と連携を図り、情報を共有しながら深刻な事態に至らないように尽力している。今後も定期的にアンケートを実施するなど、早期発見・早期対応に努めたい。	B ・講堂等の共有スペースの清掃活動が気になる。 ・SNS利用の際の情報モラル教育は強化すべき点がある。 ・生徒指導については大変よく生徒の育成をされていると思う。 ・落ち着いた雰囲気の中で学生生活を送っていることに安心した。 ・生徒指導面でも生徒と教員の乖離が少ない。教員の意図する取組が、生徒にきちんと伝わっているとも考えられ、すばらしい。 ・掃除の徹底について、具体的な対策を講じてもらいたい。	
	学習支援体制作り	①学習内容の充実 ②授業時間の確保 ③評価基準の検討・改善	本校は、進路に応じた教育課程や選択科目が用意してあると思う。 先生方は、あなたの理解度に合った適切な学習指導をしていると思う。	生徒 生徒	88.6% 78.0%			
	生徒指導	就職・進学に対応できる生徒の育成 生徒会活動の活性化 環境・美化の推進 いじめ防止・情報モラル教育の推進	①身だしなみ指導を通じた正しい服装・容儀の指導 ②挨拶の習慣の指導 ③入退室の礼法指導 ④ルールを守ることの指導 ⑤社会的マナー遵守の指導 ①学校行事への取組 ②各種委員会の活性化 ①清掃活動の徹底 ②ゴミの分別 ③学校周辺の奉仕活動 ①いじめ調査の実施 ②情報モラル教育の実施	あなたは、基本的な生活習慣が身につく、服装・髪型などの規則を守っていると思う。 本校は、下生としてふさわしい生徒になるよう適切な生徒指導が行われていると思う。 本校の学校行事は充実していると思う。 クラスの委員や係、生徒会活動に積極的に取り組んでいる。 生徒との清掃活動において十分な指導・監督を行った。 本校は、施設設備をよく整備し環境美化に努めていると思う。 本校は、いじめ問題に適切に取り組んでいると思う。 本校は、SNSの利用や適切な情報モラル教育が行われている。	生徒 生徒 生徒 教員 生徒 保護者 生徒	95.9% 91.4% 78.7% 88.1% 48.8% 79.8% 59.0% 73.6%		B ・大学進学も重要であるが、サービス業など人手不足の業界への就活や新規企業へのアプローチが弱い。 ・社会がめまぐるしく変化している中で結果を残せたことは評価に値する。生徒・教員を含め、様々な選択肢や変化を知ることが重要。 ・下関Job Netの活用状況はどうか。 ・「下関育ち」の良さを追求してほしい(下関の歴史、文化を理解、アイデンティティを醸成)。 ・地元就職が多く評価できる。 ・社会で必要なビジネスルール、コミュニケーション力は積み重ねたと思うので、指導をよろしく願いたい。 ・9年連続の100%は素晴らしい。個に応じたきめ細やかな指導の賜物といえる。 ・実社会で通用する人材を育成することが課題であるが、このことが達成できていないためB評価とするなら、目標はクリアしているためA評価でよい。
進路指導	キャリア教育の充実	①生徒・保護者への進路情報提供 ②進路ガイダンスの実施 ③3年間のキャリア教育に基づいた指導	本校は、進路に関する情報を積極的に提供し、生徒への進路指導は十分に行われていると思う。	生徒	88.8%		B ・性教育講演会、教職員対象のAED研修会、学校保健委員会を実施した。 ・毎月発行の保健だより、生徒保健委員会からの一言コメントを掲載し、生徒の興味をひくような内容となるよう工夫するとともに、健康情報の発信に努めた。また、担任等と協力し、治療観察を行った。	A ・資料や発刊物だけでなく、問題意識向上のため生徒の生の声を生かす手が必要である。 ・生徒にとっては知る手が大事なので、様々なことを伝えてほしい。 ・朝食を抜く生徒もいると思うが、食も含め規則正しい生活の指導をお願いしたい。
	就職内定率100%	①求人開拓 ②個別面接指導 ③就職課外指導 ④企業見学への参加	就職内定率	資料			B ・生活アンケートをとおして、生徒の要望や実態の把握ができた。また、生徒からの聞き取りをできるだけ丁寧に行い問題に対処した。 ・担任、養護教諭、部活動顧問等と連携し、生徒の悩みの早期発見に努め、SCとも協力して問題解決に努力した。 ・1・2学年で性格検査と教員研修を実施し、生徒理解の一助とした。グローイングハートプロジェクトを人権教育の一環として行い、SCと共に心の教育の充実にも努めた。	B ・人権教育についても正しく知ることが大事である。アンケート内容を精査し、より更新してほしい。 ・無理やり個性を作ろうとはしない。「備わった個性」と「作られた個性」は違う。 ・生徒の悩みは早期発見が重要と思うので、よろしく願いたい。
	国公立大学を中心とした進学指導	①個別課外指導(小論文)	国公立大学合格者数	資料			A ・倍増は素晴らしい。更なる向上策を検討していただきたい。 ・「本を読む」に加えて文章を書く習慣をつけてほしい(手で書く)。	
保健体育	健康管理	①各種研修会の実施 ②学校保健安全委員会の充実	各種研修会の実施状況、学校保健委員会の実施	資料			B ・時代を語り重要性を見極めることが大切である。	
	健やかな心と体の育成	①治療観察等の指導を徹底する ②保健だよりの発行	治療受診率 保健だよりの発行状況	資料 資料			B ・情報共有については向上しているが、更なる共有に取り組むには家庭側からの情報を取り入れる部分も強化する。生徒の評価は上昇傾向で良い。 ・アンケート評価について生徒は80%以上であるが、保護者についても同程度になればよいと思う。 ・学校の行事等を通じて社会性を身に付け、自分の意見を言うよう育成していただきたい。 ・各学年とも、生徒の満足度の高さは素晴らしい。具体的に下商のどんな分野・活動に満足感を感じているのだろうか。	
人権教育	教育相談の充実	①生活アンケートの実施 ②SCと協力して初期問題解決を行う	安全アンケートおよび生活アンケートの実施状況 本校は、生徒の悩みに関する相談について、適切に対応していると思う。	資料 生徒	10回 76.5%		B ・学習意欲が高まり、小論文入試に対応した時事問題に関する本が人気となるなどして貸出冊数が昨年の2倍となった。	
	人権教育の推進	①各種テストや講演会の実施	人権教育に関するテストのフィードバック研修や講演会の実施回数	資料	3回		B ・非常にすごいことでもあり、もっと評価されるべきだと思う。 ・更なる合格への補助を強化していただきたい。 ・簿記検定や情報処理検定に積極的に取り組まれている。チャレンジジョブ等の取組も高く評価できる。	
図書	読書習慣の育成	①朝の読書の継続 ②「万古館だより」による新着図書、推薦図書の案内	朝の読書時間に本に触れている。 図書館を利用している。	資料			B ・1学年…授業担当者において、授業改善、検定課外を実施し、全商簿記検定では80%以上、全商情報処理検定では90%以上の合格率を残した。 2学年…1学年同様、個別指導や検定課外を実施し、全商簿記検定では、1級に99名合格した。 3学年…全商検定1級3種目以上合格者数56名を達成した。総合実践ではビジネスマナー、チャレンジジョブでは販売実習で実践的な体験活動を実施した。	
	情報機器・校務システムの運用	①情報機器のリプレイス	情報機器や校務システムなどが整備されており使いやすい環境である。	教員	86.0%		B ・1学年…実習を通してプログラミングに関する興味を持たせることができた。全商情報処理検定では、ビジネス情報部門100%、プログラミング部門65%の合格率を残した。 2学年…全商簿記検定では80%、全商情報処理検定では、ビジネス情報部門33.3%、プログラミング部門66.7%の合格率を残した。また、各種検定に自ら挑み現段階で全商検定1級3種目以上合格者が14名に達した。 3学年…全商検定1級3種目以上合格者が21名、日商簿記検定2級合格者8名、ITパスポート合格者5名を達成した。	
第1学年	基本的生活習慣の確立	①学年情報の提供 ②保護者会による情報交換	学年やクラスの様子家庭へよく伝わっている。 本校の学校生活に満足しており、本校に入学してよかったと思う。	保護者 生徒	68.9% 89.0%		B ・情報共有については向上しているが、更なる共有に取り組むには家庭側からの情報を取り入れる部分も強化する。生徒の評価は上昇傾向で良い。 ・アンケート評価について生徒は80%以上であるが、保護者についても同程度になればよいと思う。 ・学校の行事等を通じて社会性を身に付け、自分の意見を言うよう育成していただきたい。	
	キャリア教育を充実し、進路についての目標を確立する	①学年情報の提供 ②保護者会による情報交換	学年やクラスの様子家庭へよく伝わっている。 本校の学校生活に満足しており、本校に入学してよかったと思う。	保護者 生徒	61.3% 82.6%		B ・進路決定については、三者面談だけでなく、進路指導部とも協力しながら必要に応じて保護者に来校いただくなど、きめ細やかにできたのではないかと。進路決定後の学習・欠付状況においては少し課題が残った。	
	進学・就職に向けた知識と態度の育成	①学年情報の提供 ②保護者会による情報交換	学年やクラスの様子家庭へよく伝わっている。 本校の学校生活に満足しており、本校に入学してよかったと思う。	保護者 生徒	70.9% 83.3%		B ・非常にすごいことでもあり、もっと評価されるべきだと思う。 ・更なる合格への補助を強化していただきたい。 ・簿記検定や情報処理検定に積極的に取り組まれている。チャレンジジョブ等の取組も高く評価できる。	
商業科	1学年…ビジネスの基礎とビジネスマナーの育成	簿記・ビジネス基礎・情報処理の基本3教科の知識・理解を定着させるために補習・課外を実施	全商簿記2級、全商情報処理2級、商業経済検定3級の取得	資料			A ・非常にすごいことでもあり、もっと評価されるべきだと思う。 ・更なる合格への補助を強化していただきたい。 ・簿記検定や情報処理検定に積極的に取り組まれている。チャレンジジョブ等の取組も高く評価できる。	
	2学年…上級資格取得への取組	全商検定1級取得のために補習・課外を実施	全商簿記検定1級、全商簿記1級、全商簿記2級、全商簿記3級の取得	資料			A ・非常にすごいことでもあり、もっと評価されるべきだと思う。 ・更なる合格への補助を強化していただきたい。 ・簿記検定や情報処理検定に積極的に取り組まれている。チャレンジジョブ等の取組も高く評価できる。	
	3学年…社会人基礎力の育成、全商1級3種目の取組	「総合実践」でビジネスマナー教育を実施、「チャレンジジョブ」で販売実習を経験、商業経済検定1級の取得で全商検定1級3種目取得を目指す	全商検定1級3種目以上合格者数50名、販売実習の実施	資料			A ・非常にすごいことでもあり、もっと評価されるべきだと思う。 ・更なる合格への補助を強化していただきたい。 ・簿記検定や情報処理検定に積極的に取り組まれている。チャレンジジョブ等の取組も高く評価できる。	
情報処理科	1学年…情報に関する基礎的な知識・技術の定着	プログラミングに関して興味を持たせる	日商簿記3級、全商情報処理2級2種目、商業経済3級の取得 プログラミングに関して興味関心を持たせる	資料			B ・商業高校の優位性の部分であり、この情報はもっと公開すべきである。 ・更なる合格への補助を強化していただきたい。 ・継続して各種検定の合格率向上に取り組んでいただきたい。	
	2学年…情報に関する専門的な知識・技術の習得	実践的な技術を身に付ける	全商簿記1級、全商情報処理1級2種目の取得	資料			B ・商業高校の優位性の部分であり、この情報はもっと公開すべきである。 ・更なる合格への補助を強化していただきたい。 ・継続して各種検定の合格率向上に取り組んでいただきたい。	
	3学年…専門的な分野を自主的に学ぶ意欲・態度の育成	課題研究や選択科目を通して高いレベルの知識・技術を身に付ける	全商検定1級3種目以上合格者数15名 高度資格の取得(日商2級、ITパスポート等)	資料			B ・商業高校の優位性の部分であり、この情報はもっと公開すべきである。 ・更なる合格への補助を強化していただきたい。 ・継続して各種検定の合格率向上に取り組んでいただきたい。	

動特色の推し進める教育活動	実践的な取組	①持続可能なコミュニティ・スクールの取組の展開 ②チャレンジショップの更なる発展 ③課題研究の取組の充実 ④高度資格取得に向けた取組の充実	本校は、特色ある活動が多く実施されている。	生徒	88.2%	簿記部3年生3名、2年生3名が日商簿記検定1級に合格し、昨年8月に実施された税理士試験(科目:簿記論)に3年生1名が合格した。これで本校での税理士試験の科目合格は3年連続となった。加えて、卒業生2名(大学1・2年生)が公認会計士試験(論文式)に合格し、「日商1級プロジェクト」の取組6年目にして初めて公認会計士の合格者を輩出した。	A	・簿記に特化することには良いが、具体的方策の充足度は低いので、やり方を考えなければならない。 ・多方面での特色も検討いただきたい。 ・素晴らしい結果がアピールになる。 ・特色ある取組をされており、高く評価できる。 ・引き続き高度資格取得の支援体制の充実をお願いしたい。	A
	高度な学習の展開		日商簿記、ITパスポート等高度資格取得合格者の前年度比増	保護者	88.4%				
業務改善	働き方改革に係る「当事者意識」の高揚	自分の「多忙化」の現状を客観的に把握する	業務時間記録表に基づくセルフジョブコントロールを推進している。	教員	83.7%	業務時間記録表の提出率は95.6%(昨年度比+14%)となったが、超過勤務時間の削減は目標値に達していない。	B	・ICTやAI活用で報告書作成、記録業務を減らす努力をする。 ・引き続き目標達成の取組をお願いしたい。	B
	働き方改革に係る具体的な行動	業務時間削減に向けて主体的に取り組む	長期休業中の「時差出勤」等の活用を推進し、業務時間短縮に努めている。	教員	59.5%	時差出勤については取得手続きの簡素化等もあり、かなり定着してきた。最終退校時刻の遵守にはまだ課題がある。	B	・会議、作成書類の大幅な削減など根本的な対策が必要である。	B

## 6 学校評価総括(取組の成果と課題)

【総務】インターネット等による迅速、的確な情報発信は、概ねなされた。よりの確な、見やすく、伝わりやすい情報発信をすることが課題である。

【教務】授業の取組等はよい傾向が続いているが、出席率の低下に歯止めがかからない。学校全体が意識を持って改善に取り掛からないといけない。

【生徒指導】問題行動がほとんどなかったことは大変評価できるが、女子の制服のボタンを留めさせることや、欠席・遅刻の数を減らすことについてはまだ充分とは言えない状況である。また、「ブラック校則」という言葉で学校が批判されることが多い現在、生徒指導は極めて難しくなっているが、普遍的なものは継続しつつ、時代に合わないものは改訂していくことで柔軟に対応したい。

【進路指導】数字のうえでは、国公立大学20名合格、就職率100%を達成した。出口を保障したことは良かったが、実社会で通用する人材を育成することが課題である。

【保健体育】(体育)集会指導については、より踏み込んだ指導の必要性を感じるが、全教員が一致して指導することが全体の向上につながると思われる。(保健)健康観察等から、生徒の健康状況を把握することができた。また、担任等と連携し治療勧奨を行っているが、生徒が自分の健康について主体的に受け止め、自己管理能力を育てることができるよう、様々な機会を通して保健指導の充実を図ることが課題である。

【教育相談・人権教育】学校生活アンケートをもとに細やかな対応を行ったが、アンケートに表出されない生徒の悩みへの対処が今後の課題である。また、特別支援教育の視点からの配慮や個に応じた支援体制の構築が不十分であった。

【図書】生徒のニーズと学びに対応した選書および企画展示を行った結果、貸出冊数が倍増した。日々のブックトークで、生徒の書籍への関心を高めることができた。

【情報】安定した校内システムの運用ができたことが成果である。情報機器のリプレイスも予定通り進んでいるが、予算の関係で授業改善のための情報機器の導入ができないことが今後の課題としてある。

【第1学年】商業教育に大切な礼節を中心に指導してきた。概ね身についているようではあるが、まだ指導不足の面もあり、そこが次年度の課題でもある。

【第2学年】2学期以降は学校の中核学年の意識をうえつけた。文化祭等、中心となって自主的に活動できる生徒が多い学年である。向学心に関してはまだまだの段階の生徒が多い。

【第3学年】進路については、進学・就職ともにほぼ希望に沿った決定をすることができた。進学について昨年度の3学年の反省を踏まえ、担任団と進路の連携を密にし、生徒に情報を提供した。残念ながら進路決定後の欠席や欠課の急増が顕著であった。

【商業】昨年度から継続して定期考査前の個別指導や検定対策課外など、各教員が担当クラスの生徒に対して十分な指導を行った。その成果として、1年生の「簿記」、2年生の「会計」「原価計算」の合格率が上がった。来年度に向けては、全商検定1級3種目以上合格者数のさらなる増加、1年生全体への日商簿記指導、令和4年度からの新教育課程(案)の検討等が課題である。

【情報処理】情報処理科の担任や教科担当者との連携を図り、生徒一人ひとりの成長が結果として現れた。公務員試験合格も含めて多くの生徒が進路実現も果たせた。来年度も3年間の継続的な指導を通してより一層の成長が図れるようにさらに教員間の連携、協力を進めていきたい。また、多くの生徒が全商検定1級3種目以上合格や高度資格の取得ができるように指導を継続したい。

【業務改善】「業務の見直し・効率化」については1月初めの運営委員会・職員会議及びPTA役員会・委員会を1回削減した。また、本年度から一括徴収金を口座振込に変更したことにより、教員の負担は大きく減少した。「勤務体制等の改善」については、部活動指導等において昨年9月に策定した部活動運営方針に沿って、超過勤務時間の更なる削減を図っていきたい。

## 7 次年度への改善策

【総務】的確な情報を見やすく、伝わりやすいように工夫改善していく必要がある。

【教務】家庭学習を増やす工夫を考える。欠席を学校全体で1日10人以内を目標にしたい。

【生徒指導】教員全員で生徒指導をするという意識を共有することが大切である。また欠席・遅刻については不登校傾向にさせないような努力と、基本的な生活習慣の確立の両面から取り組みたい。

【進路指導】進路指導部、3年担任だけが指導するのではなく、教員全員、コミュニティ・スクールに関わっている方の協力を得ながら、生徒の進路実現につなげていきたい。

【保健体育】(体育)保健体育科の教員が中心となり、各担任や生徒指導部との連携を強化していきたい。(保健)様々な悩みを抱えている生徒が多いため、担任や教育相談、学年、SC等と連携し共通理解を図り、組織的に対応していきたい。また、次年度も継続して、下商祭での「骨密度測定」や「生活アンケート」等を実施し、生徒保健委員会活動の充実を図りたい。

【教育相談・人権教育】一人ひとりの生徒を全教職員で支援する体制作りにも努め、対処療法的、問題解決的な教育相談から予防的な教育相談へシフトしていきたい。

【図書】社会で生きていくために必要な文章理解力を養うための活動を行い、学習センターとしての図書室をめざしていく必要がある。

【情報】新しい校内システムの導入にあたって、不具合等に迅速に対応したい。また、教員からの要望を聞き、校内システムのよりよい在り方の模索や情報機器の一層の活用促進を図りたい。

【第1学年】学校の中心となる学年であることの自覚を持ち、行事・学習・部活動等に対して意欲的な取組を促したい。進路に関しては入試制度などの変り目になるので、新しい情報等を発信していきたい。

【第2学年】リーダーシップが取れる生徒を育成し、学校行事、式典等において校歌をしっかりと歌わせる等、「凜とした」学校にしていきたい。

【第3学年】進路決定をした後の日々の生活態度だけでなく、進学後の学習不足を埋める努力、就職後の心構え等に対する意識の高揚を図ることのできる指導の強化を行いたい。

【商業】全商検定1級3種目以上合格者数の増加に向けて、縦横に連携を深め、継続した指導を実施する。1年生全クラスに日商簿記3級の指導が行えるように研修を行い、実施に向けて検討する。新学科・新教育課程について、継続して検討する。

【情報処理】クラス担任、教科担当者等との連携、協力をさらに深める。資格取得や進路実現に向けて適切な指導ができるように教員と生徒の意思統一を図る。

【業務改善】引き続き校務の総点検を行い、更なる業務の精選・簡素化を推進する。また、定着してきた時差出勤の活用に加え、最終退校時刻、ノ一残業デー設定等による時間管理意識の高揚を通じて、勤務時間を意識した働き方を着実に推進し、超過勤務時間の削減を確実に進めていきたい。学校業務支援員や部活動指導員等の学校支援人材の活用についても、市教委とも協議しながら検討していきたい。